

令和3年度 学校運営協議会 第3回会議録抄

玉野市立玉野備南高等学校

第3回の学校運営協議会は、令和4年3月2日に対面での開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症オミクロン株の全国的な感染の急拡大を受け、岡山県でもまん延防止等重点措置の期間であったことから、感染予防の措置として「書面開催」とした。

【委員】大賀、金子、清本、熊谷、白髭、角田、鶴田、二宮、東、的場(アイウエオ順)

1 令和3年度の学校評価書(案)の審査

学校経営目標(1)～(5)について、本校での年間の取組を説明し、それに関わる自己評価を提示した。委員の方々に書面で審査していただき、下表のと通りの外部評価を得た。

学校経営目標	外部評価
(1) 生涯にわたり学ぼうとする態度や社会で生きていくために必要な学力を育てる。	A
(2) 社会に必要なマナーやルールを守り、自分及び他人を大切にできる人間力を涵養する。	B
(3) 地域と連携したキャリア教育の推進を図り、働き自立してより良く生きようとする態度を育てる。	A
(4) 生徒一人ひとりの実態を把握し、通級をはじめ特別支援教育や教育相談を推進する。	A
(5) 人権教育の充実を図り、外部関係機関と密接に連携しながら、いじめの根絶に取り組む。	B

(A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を下回った)

(1)については、委員の方による「A」の評価が100%であったことから、外部評価を「A」とした。

(2)については、委員の方による「A」の評価が43%で、「B」の評価が57%であったことから、外部評価を「B」とした。

(3)については、委員の方による「A」の評価が57%で、「B」の評価が43%であったことから、外部評価を「A」とした。

(4)については、委員の方による「A」の評価が100%であったことから、外部評価を「A」とした。

(5)については、委員の方による「A」の評価が28%で、「B」の評価が72%であったことから、外部評価を「B」とした。

学校評価に関して委員の方から寄せられた主な意見は次のとおり。

○「玉野備南高校の学校運営協議会に参加させていただき、学校のイメージが変わりました。本当に子どもの伸びしろを最大限に生かして、社会に送り出したいという取組には頭が下がります。素晴らしい学校と評価します。逆に言い換えますと、もっと義務教育過程でできる取組はなかったのかとも思います。この学校を選び、生きづらさを感じている子どもたちや、その親は子どもの成長に希望を持つことができたのではないかと想像しますと、先生方の取組、関わりに良い評価を付けさせてください。また、外部からの関わりが持てるような開かれた学校になってゆかれることを期待します。」

○「(交通安全指導に係る項目について)中間評価に『B』を付けられているが、交通安全情報を2か月に1回だったものが、ひと月に1回以上になり、自転車の保険加入もできたという記載があっても、それでも『B』なのですか。控えめな評価ではなく、できているところ、しっかり改善できている箇所について評価していただいたほうが良いと思います。」

2 本校に求められている教育についての意見

○「ミッションや学校経営目標で掲げられているとおりでと思う。その意味では、適切なビジョンや目標と考えられる。引き続き、キャリア教育や総合的な探究の時間の充実を図り、生涯学習センターとも連

携しながら、推進していただきたい。

生涯学習センターと連携することは、地域の大人たちとの学び合いに繋がり、有効だと思います。」

○「グランドデザインに書かれている『基礎的な学力』『コミュニケーション力』『自己管理力』、そして『人間力』、卒業後、社会に羽ばたく生徒にとってまさに必要な力だと考えます。夢もない、目標もない生徒がここ(備南高校)に行けば、変わるかもしれないと思い、入学時、自己肯定感の低い生徒にこうした力を粘り強く身に付けさせる教育を今後ともよろしく願います。」

○「ほかの学校にはない自由な発想と先生方の対応力をもって、生徒たちに卒業してすぐに社会に対応できるようなスキルと自信を在学中に身に付けさせることが求められている。」

○「玉野備南高校に求められている教育とは、自分や人を信じて、自分や人を大切にすることです。人権教育かもしれません。大人が信じられないと育った子どもや、小さな世界で引きこもっていた子どもさんもいるかと思います。3年間一緒に伴走してくれる先生がいる、裏切らない大人がいるという経験は、貴重なものとなります。それが基礎にあると、学ぶことができるのではないのでしょうか。」

○「教育の一環としてぜひ取り組んでいただきたいこととしまして、1、コミュニケーション能力を養う。2、忍耐力を養う。3、課題解決および改善力を養う、以下のように考えております。

1、コミュニケーション能力を養うことの必要性について、

昨今、ネットの普及やコロナ問題から、対面的なコミュニケーションをとる機会が非常に減ってきています。弊社の新入社員の傾向としましても『おとなしい』ではなく、『コミュニケーションが取れない』社員が増えてきているのが現状です。学校生活を通じ、生徒同士での日常的なコミュニケーション、先生方(指導者)とのコミュニケーションは、今後さらに重要になってくるかと思います。また備南高校の生徒さんと先生方は非常に良い距離感であると思っており、コミュニケーション能力を培う場所としては適した学校だと思っています。

2、忍耐力を養うことの必要性について、

粘り強く物事に取り組む習慣も在学中に養っていただきたく思います。忍耐力の有無で思考力がポジティブ(積極的)になるか、ネガティブ(消極的)になるかにも影響すると言われております。何かをやり遂げることで『成功体験』をすることができれば、本人の自信にもつながると思います。また忍耐力を養うことで、課題解決能力の向上にもつながると考えます。

3、課題解決および改善力を養うことの必要性について、

日常社会では、『答え』が決まっていることばかりではなく、自分で考え、自分なりの答えを導き出すケースは多々あります。そういった際に解決方法が考えられることや判断を誤ったときの反省と改善ができることは、社会に今後出て行く上でも非常に役立つスキルだと考えています。」

○「学校経営目標にもあげられているように、

・社会で生きていくために必要な学力や規範意識、あるいは基本的な生活習慣を育むこと。

・ひとりひとりを大切に思い、部活動や生徒会活動などを通して居場所ができ、自己肯定感が持てるような取り組みが行われること。

多様な生活環境や多様な特性を持つ生徒さんが多く、社会と強く関わりながら成長していくことが必要だと思います。また、ひとりひとりが大切にされていると思えることで、挫けずに前へ進んでいける力を育むことも必要だと考えます。」

3 その他

○「評価結果を拝見しても、個に応じた広く深く生徒と向き合っておられる先生方の姿が感じられます。御苦勞は多いでしょうが、ご無理のない範囲で頑張ってくださいと思います。いつでも応援いたしております。」